

4-2

主題 生活を止めないケアの実践

基本ケア

副題 基本ケアの徹底で生活を守る

自立支援

研究期間 15ヶ月

事業所 デイサービスセンター西が丘園

発表者：古川真介

アドバイザー：杉本浩司

共同研究者：デイサービス職員一同

電 話 03-5924-7825

メール n-day@busonkai.com

FAX 03-5924-7712

URL

今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

定員・・・一般コース 35 名 認知症コース 12 名 計 47 名
生活を止めない、生活を守る
笑顔とありがとうの伝染
わがままを引き出す
を基本理念にサービス提供を行なっている。

《研究前の状況と課題》

以前は利用者の中に落ち着きが無い方、いつもボーっとされている方、ふらつきがあり転倒の危険性が高い方、問題行動がある方が多い状態だった。その場、その場の対応に職員が追われるという状態になっていた。職員の利用者に対する対応も継続的なケアではなく、その場限りになり、その日がとりあえず終われば良いという考え方になっていた。

利用者の ADL 低下に伴い大変になっていく日常業務に「このまま続けていけるのか？」という状態になっていた。利用者の現状をどのように解決すれば良いか等の方法についてはほとんど考えずただ職員が増えれば大変な状況が解決されるのでは？と考えていた。

《研究の目標と期待する成果》

理論に基づいた、根拠のある基本ケアを徹底する事で利用者の自立支援を行ない、自宅での生活を続けられるよう援助していく事。

利用者の自立性の回復を行なう事により、それまで提供していたレクリエーションや趣味活動・外出行事を、より楽しんでいただく。利用者の ADL 向上に伴い、業務負担の軽減を図る。

デイサービス利用中以外の在宅生活においても、利用者・家族双方にとっての QOL の向上が図れるよう援助する。

《具体的な取り組みの内容》

人間は1日1500mlの水分摂取が必要である。

1日の必要摂取量が確保出来るよう、デイサービスでは利用中に基本的に1000ml摂取出来るよう支援している。(水分摂取量に制限がある利用者は除く)。

脳の各機能の役割を理解したうえで、覚醒水準を上昇する事を目標に水分摂取を促している。

運動機能(歩行能力)向上を基本に1日利用中に1kmの歩行を目標として援助している。

園内での取り組みとして、車椅子から椅子に移って生活する事・少しでも歩行する事を実施している。

園外の取り組みとして、天候に関係なく暑くても、寒くても、雨でも、台風でも外出歩行～散歩～を行なう(天候条件の良い時だけ行なっても意味が無い。自宅で生活していれば雨でも出かける必要はない事はある)。

個々の利用者の水分摂取量・歩行距離の記録を行ない、経過を追っている。通所介護計画書上でも具体的数値の目標設定を行ない3ヶ月に1回評価を行なう。達成出来れば次の目標設定を行なう。

全ての援助が「生活を止めない事に繋がっている事」を意識して行っている。

《取り組みの結果と評価》

水分摂取に関して、摂取量の目標を達成出来ている人が多い。

覚醒水準の上昇に伴いボーッとしている利用者が減った。利用者自身・家族の水分摂取に対する意識的な変化が生まれ、自ら積極的に摂取する人や他者に勧める人が増えた。

認知症の周辺症状に関して、改善の傾向が見られている(不穏状態が減った等)。

便秘に改善の傾向が見られている。

運動に関して、歩行能力の向上が図れ、転倒の危険性が高い方が減った。

外出歩行による気分転換が図れる。又、利用者にとっても歩く事が喜びになっている様子が窺える(私生活でも散歩をする等)。

《まとめ》

基本ケアを徹底する事で利用者だけでなく職員・家族・ケアマネジャーにも変化が生まれた。

又この取り組みが新規の利用依頼・稼働率上昇に繋がっている。

《参考文献》

「介護基礎学」 「ケアマネジメントの職人」
「認知症のケア」 「認定ケアマネージャーをきかえる～ケアマネジメント事例集」

以上 竹内孝仁著

「認知症 あったか介護としあわせケアプラン」
坂本宗久著

《提案と発信》

「介護職は専門職」といっても、理論と根拠に基づいた介護を徹底して行なっている事業所はまだ多くないのではないのでしょうか？

今回発表するケアを提供するだけでも、利用者の明らかな変化は認められ、家族の介護負担軽減に繋がっていると感じています。

【メモ欄】追加資料 有 ☒ 無 ☐